**曹洞宗大本山總持寺・ニコニコ法話　　　　　　　　　　　　　　　　　　 令和6年10月**

 **達磨さま**

**本山布教教化部長 花和浩明師**

10月5日は達磨忌です。禅宗の祖、菩提達磨さまの御命日にあたる日とされます。大本山總持寺ではほかの僧堂同様に、この日達磨さまの御遺徳を偲ぶ法要が営まれます。あわせて本山では、換簾という行持が行われ、大僧堂と衆寮の前後の入り口の大きな簾を夏の仕様から冬の仕様へと模様替えをします。

達磨さまは5世紀から6世紀の人とされますが、足跡にかかわる正確な資料はほとんど伝わっておりません。伝説とともに語られるご生涯を簡単にまとめると、達磨さまはインドの王族のお生まれで、若い時より仏教論理に精通されていたといわれます。般若多羅尊者のもと長年仏教の研鑽に務められ、禅の奥義を窮められました。そして、師の戒めを守り60歳を過ぎて中国に渡り、現在の河南省にある嵩山に最初の禅宗寺院である少林寺を建立され、この地を拠点として中国全土に禅を広められたのです。

伝説によると達磨さまは、100歳をはるかに超える長い寿命を全うされたとされます。また少林寺においては、9年もの間ほとんど休むことをせずにひたすら壁に向かって坐禅をされたといわれます。その他、超人的な様々な伝説が伝わっております。

いずれにしても、仏教史において極めて偉大な存在であったことは間違いないところでしょう。

達磨さまの真意を一言で表したお言葉に「不立文字　教外別伝」があります。意味は「仏法の真髄は、言葉や文字を離れたところにあり、以心伝心によって伝わるものである」と私は解釈します。このお言葉は禅を理解するのにはとても重要な言葉とされています。

ただ誤解しないでいただきたいのは、文字や言葉を学んではいけないということはないのです。それにとらわれるなということでしょうか。私が学んだ大学の先生が、「徹底して学びなさい、しかし最後にはそれを全部捨てなさい」とおっしゃっていたことを今でも鮮明に覚えています。

年を重ねていくと、どうしても手放せないもの多くなりすぎて、頑なになり心を狭くしてしまいがちです。どうか坐禅を続けて、とらわれていた思いを一度手放してみてください。これまで自分の中で眠っていたもっと自由な心に出会うことが出来るかもしれません。